2)感染症発生動向調査に伴うウイルス検査（平成19年度）

松尾　繁　　原田　誠也　　中島　龍一

はじめに

熊本県結核・感染症発生動向調査事業実施要領及び熊本県感染症発生動向調査病原体検査実施要領等に基づき，平成 19 年度に検査依頼のあった検体についてウイルス検査を実施した結果を取りまとめたので報告する。

検査材料及び方法

1 検査材料

県内の病原体定点等で採取された咽頭ぬぐい液（鼻汁及びうがい液を含む。），便（直腸ぬぐい液を含む。），結膜ぬぐい液，髄液，尿を検体とした。搬入された検体は，検査に供するまで-80 ℃で保存した。

2 検査方法

既報[1), 2)]に準じ，試験管又はマイクロプレートによる細胞培養法で検査を実施した。感染性胃腸炎や麻疹等の検体に関しては主に PCR 法により遺伝子検出を行った。分離ウイルスの同定は中和法を基本とし，必要に応じて PCR 法や赤血球凝集抑制(HI)法，蛍光抗体法等を用いた。

結　果

平成 19 年度は，病原体定点である 11 の医療機関から 361 検体，また定点外の 15 の医療機関から 126 検体，合計 26 の医療機関から 487 検体の検査依頼があり，264 検体からウイルスが分離あるいはウイルス遺伝子が検出された。

検体受付状況，感染症別ウイルス検出状況及び検体採取月別ウイルス検出状況を，それぞれ表 1，表 2 及び表 3 に示した。

1 インフルエンザウイルス

インフルエンザウイルスは，インフルエンザ検体から AH1 型が 27 株，AH3 型が 14 株，合計 41 株が分離された。今期は B 型は分離されなかった。

2 エンテロウイルス，ヒトパレコウイルス

エンテロウイルスは，感染性胃腸炎，ヘルパンギーナ，手足口病，無菌性髄膜炎等の 32 検体から分離あるいは遺伝子が検出された。内訳は，A 群コクサッキーウイルス 2 型が 1 株・6 型が 1 株・10 型が 1 株・16 型が 3 株，B 群コクサッキーウイルス 3 型が 1 株，エコーウイルス 25 型が 2 株・9 型と 25 型の混合感染が 1 株，エンテロウイルス 71 が 18 株，型別不明が 4 株であった。感染症別では，主なものとして手足口病検体からエンテロウイルス 71 が 14 株，A 群コクッサッキーウイルス 16 型が 3 株分離された。エンテロウイルス 71 は無菌性髄膜炎検体からも 4 株分離された。分離された 18 株のエンテロウイルス 71 のうち 8 株は抗血清で中和されなかった。

また，当研究所ではこれまでに分離されたことがなかったヒトパレコウイルスが 2 株分離された。発疹症検体から 1 型が 1 株，呼吸器疾患検体から型別不明 1 株が分離された。

3 アデノウイルス

アデノウイルスは 22 株が分離あるいは遺伝子が検出された。内訳は，2 型が 3 株，3 型が 2 株，11 型が 1 株，37 型が 4 株，型別不明が 12 株であった。感染症別では，主なものとして流行性角結膜炎検体から 7 株分離され，2 型が 1 株，11 型が 1 株，37 型が 4 株，型別不明が 1 株であった。また，感染性胃腸炎検体のうち 11 検体から PCR 法によりアデノウイルス遺伝子(型別不明)が検出された。

4 ロタウイルス，アストロウイルス，ノロウイルス，サポウイルス

感染性胃腸炎を疑う検体は，対前年度比 3 倍増の 269 検体の検査依頼があった。起因ウイルスであるこれらのウイルスは 163 検体から PCR 法によりウイルス遺伝子が検出された。内訳は，感染性胃腸炎検体で A 群ロタウイルスが 11 検体，ノロウイルス(G1)が 5 検体，ノロウイルス(G2)が 86 検体，サポウイルス(G4)が 47 検体[3)]，混合感染が 13 検体から検出された。また，その他の感染症でノロウイルス(G2)が 1 検体から検出された。

5 その他のウイルス

本県においては 2 月から 3 月にかけて麻しんの流行があったが，この時期に麻しんを疑う 8 件の検査依頼があり，このうち 2 件(2 検体)から PCR 法により麻しんウイルス遺伝子が検出された。この他，流行性角結膜炎検体から単純ヘルペスウイルス 1 型が 1 株分離され，また，脳炎・脳症等検体のうち 1 検体から PCR 法によりヒトヘルペスウイルス 7 の遺伝子が検出された。

参　考　文　献

1) 西村浩一，松尾繁，田端康二，甲木和子：熊本県保健環境科学研究所報，**30**，49 (2000).
2) 松尾繁，田端康二，西村浩一，甲木和子：熊本県保健環境科学研究所報，**31**，71 (2001).
3) 原田誠也，他：病原微生物検出情報，**29**，46 (2008).